令和８年度日本規格協会標準化貢献賞等　功績概要

［標準化貢献賞］

（敬称略）

氏　名	主　な　功　績
大西　啓二郎 一般社団法人 日本建設機械施工協会 標準部部長	2019 年に一般社団法人日本建設機械施工協会（JCMA）に着任して以来、長年にわたり土工機械および建設用機械分野における JIS 開発の中心的な役割を果たし、継続的に原案作成業務を担当。 JCMA が原案作成団体として担う広範な規格開発において、JSA 公募制度を計画的に活用し、2026 年 6 月までに計 26 件におよぶ JIS の制定・改正を主導した。また現在も、機能安全や火災予防といった技術動向に対応する 11 件（改正 9 件、制定 2 件）の JIS 開発に携わっている。 これらの規格開発にあたっては、JCMA が ISO/TC127（土工機械）及び傘下の SC1、SC2、SC3、SC4、ISO/TC195（建設用機械及び装置）及び傘下の SC1、SC2、SC3 の国内審議団体である体制を活かし、国際担当者や会員企業と連携を取りながら、ISO 規格に整合した JIS（IDT/MOD）の原案作成を着実に遂行した。これにより、国内の土工機械・建設機械業界における安全基準の整備や、国際規格との整合化に貢献している。
高橋　猛 日本化学キューエイ株式会社 執行役員　特別顧問　シニアフェロー	2024 年から開始した ISO 19011（マネジメントシステム監査の指針）の改訂作業に日本のエキスパートとして国際会議に参画。我が国の意見反映に大きく貢献(2026 年 5 月に IS 発行)。 また、日本規格協会が原案作成団体として進めている同規格の JIS 化作業にも委員として参画。国際規格の改訂作業の中で得られた議論の経緯や背景を深く理解している立場から、日本の状況に即した精度の高い JIS 原案の作成に大きく寄与している。 さらに、研修事業部が開催した改訂動向説明会（DIS 段階及び国際規格発行後）の講師を務め、その深い知見に基づく的確な解説により、国内の多くの関係者に対する新たな監査指針の理解促進と普及に多大な貢献を果たした。 国際規格の改訂から国内の JIS 開発、さらには普及活動に至るまで、マネジメントシステム監査分野の標準化活動において多岐にわたる多大な貢献をしており、その功績は高く評価される。

氏　名	主　な　功　績
入倉　則夫 あとりえ IRIKURA	株式会社デンソー在籍時には、当会出版の「おはなし新商品開発：事例で分かる CRT や新商品開発スコアカードの威力！」を共著として執筆。現在は QC 検定過去問題解説委員会に初回から参画し「過去問題に学ぶ QC 検定（1 級～3 級）」を執筆している。また昨年度から新たに発刊された「CBT 対応版 QC 検定 3 級対策問題集」でも執筆中を担当。わかりやすい解説から読者の評価も高く、QC 検定の普及に貢献している。 日本規格協会主催の名古屋教室における品質管理と標準化セミナー及び QC 入門講座の講師を務め、特に信頼性、実験計画法、多変量解析の理解度評価は高く、個別テーマ改善指導では実務の経験を活かした幅広い知識により的確にアドバイスするなど、人材育成にも大きく貢献している。 その他、職業能力開発総合大学校教授として生産管理分野を主とした教育に携わった経験を活かし、COSCO（品質経営システム研究会）や社内研修など外部への講演を行うなど、若手技術者の育成も支援している。
太田　勝之	株式会社シマノ在職中の 2006 年から日本規格協会主催の関西教室における品質管理と標準化セミナーでパラメータ設計・回帰分析の講義と実践指導を担当。 パラメータ設計での誤差因子の説明では、受講生に実際での使用条件を加味することの大事さを説いた。 実践指導では、受講生とのコミュニケーションを確実に行い評価の高いアウトプットを導き、受講生・企業側からも高い評価を得た。 企業内研修においても、これから品質工学を導入する企業に対し、導入から実践までの指導を行った。 現在、品質工学会 理事の任に就き、技術向上委員長を担当し品質管理学会との連携も推進し、将来に向けての管理技術の進展にも貢献している。

氏　名	主　な　功　績
吉川　真治	2008 年より審査員として活動を開始し、長きにわたり組織のマネジメントシステムの取組み及び認証登録制度の社会的な信頼性の向上に大きく貢献している。 現在は食品安全マネジメントシステム（FSMS）の主任審査員としての活動が中心であるが、過去には品質マネジメントシステム（QMS）、環境マネジメントシステム（EMS）も担当し、3 つのマネジメントシステムで主任審査員を務めた豊富な経験と実績で審査登録事業に大きく貢献。 特に FSMS においては、事業立ち上げ後の草創期から審査活動に携わり、制度の基盤構築と発展を支えた。ほぼすべてのフードチェーンカテゴリーを保有する数少ない審査員であり、幅広い業務分野に精通した高い専門性を持つことから、FSMS 審査において極めて貴重な存在として活躍している。 さらに、FSMS の判定委員会においては主査として信頼ある認証の決定を行い、日本規格協会グループの認証の信頼性確保に貢献したともに、後進の指導においても秀でた力量を有しておられ、質の高い次世代の審査員育成にも尽力している。
松本　浩樹 キューピー株式会社　品質保証本部 お客様相談室　担当部長	2015 年から食品安全マネジメントシステム（FSMS）評価委員会委員、試験問題委員会委員を務め、日本要員認証協会（JRCA）での FSMS 審査員登録制度の立ち上げ（一般財団法人食品産業センターの旧日本食品安全マネジメントシステム評価登録機関（JFARB）から JRCA に同制度を事業移管）後の事業推進に大きく寄与した。 その後も両委員会の委員として尽力するとともに、現在は FSMS の試験問題作成委員会委員として、新任委員のトレーニングを中心に担当し、FSMS 筆記試験採点業務の適切な実施と、定期的に交代が生じる委員会体制の維持に貢献している。

［標準化貢献特別賞］

（敬称略）

団体・企業名	主　な　功　績
地方独立行政法人 岩手県工業技術センター	2015 年の「標準化活用支援パートナーシップ制度」発足当初からパートナー機関として参画。岩手県唯一の機関として、地域企業の標準化活動支援を通じた産業振興、経済活性化に貢献。継続的に標準化テーマの発掘にも尽力し、延べ 10 件以上の新規 JIS 化を提案し、その成果として、新市場創造型標準化制度による JIS 化をパートナー機関として支えたほか、1 件の JIS 化を支援した。 また、標準化の普及を目的としたセミナーに多数登壇したほか、同センター主催の成果発表会では日本規格協会グループのブースを毎年設置するなど、標準化関連活動に対する貢献度は極めて高く、顕著な功績を挙げている。

［標準化奨励賞］

（敬称略）

氏　名	主　な　功　績
井上　悟志 東京理科大学　大学院 経営学研究科 技術経営専攻　教授	2024 年度より「ルール形成戦略研修」の講師を務め、年間 4～6 回の講義を担当。アカデミアの視点を取り入れたバランスの良い講義と、丁寧かつ真摯な指導スタイルは受講生から高い評価を得ており、各組織におけるルール形成の事業戦略立案に大きく貢献している。 また 2025 年度には、大阪・関西万博に合わせた日本規格協会主催の標準化セミナー講師を務め、工夫を凝らしたプログラムにより有料化の試行を成功へと導いた。 この実績は標準化事業の試金石となるものであり、今後、多大な貢献が期待できる。
小田　明佳 地方独立行政法人 京都市産業技術研究所　プロジェクト推進センター　分析計測プラットフォームプロジェクト プロジェクトリーダー	2003 年京都市産業技術研究所に入所し、繊維製品を中心に触感（風合いの一つ）と力学特性の評価に関する研究に従事。特に女性研究員の視点から化粧用具、特に化粧ブラシの研究に注力し、化粧ブラシの力学特性測定方法についてプロトタイプの試験機を作成しデータ整備を推進した。 一方、化粧ブラシ業界では、獣毛供給量の減少から合成繊維への転換が進んでいること、ネット販売における品質情報の可視化ニーズが増大していることなどから使用感に基づく製品品質の数値化が必要とされていた。 このような状況の中、化粧ブラシ企業から新市場創造型標準化制度を利用した化粧ブラシの力学特性測定方法の標準化提案がなされ、2023 年 12 月に採択。2024 年から 2025 年にかけて原案作成を主導し、風合い試験機（KES 試験機）メーカーと協働して試験方法の標準化作業にあたり中心的役割を果たした。本年度には JIS S 4052（化粧ブラシの力学特性測定方法）として制定公示される予定である。 「風合い」は従来、官能的な感覚に依存するため規格化が困難とされてきたが､近年では繊維の接触冷感性が JIS 化されるなど、標準化の波が広がりつつある。今後は「風合い」が商品選択時における重要なファクターとなりつつあり、今後とも標準化ニーズが高まることが予想され、同氏の知見と貢献が期待される。

氏　名	主　な　功　績
鮫島　喜栄智 株式会社ジェイテクト	2019 年より ISO/TC10（製品技術文書情報）及び ISO/TC213（製品の寸法・形状の仕様及び評価）の標準化活動に携わり、現在も複数の国内委員会・同関連 JIS 素案作成委員会の専門家として参画。 これまでの間、国内委員会活動に対する協力に加え、ISO/ TC 10 及び ISO/TC 213 の国際会議にもエキスパートとして積極的に参加し、我が国の意見反映に尽力。また、同分野の ISO 規格の投票は年間 70 件程度にのぼり、内容と質を向上させるために全ての案件をくまなく確認し、技術的な視点とともに ISO/IEC 専門業務用指針をもとに様式的な視点からも的確な指摘を行い、我が国から提出するコメントの信頼性を高めることに大きく寄与している。 また関連する JIS 素案作成委員会においても 2019 年以降約 20 件の規格審議に携わっており、多くの適切な意見を出し、JIS の内容と質の向上に大きく貢献している。最近では、転がり軸受などの機械部品で必要となる ISO 21204［Geometrical product specifications (GPS) − Transition specification］の JIS 化を担当し、深い洞察・検討・考察によって、非常に速いペースで JIS 原案を完成間近の状態に昇華させるに至っている。 国際・国内の標準化活動に関わる献身的な姿勢は高く評価できるものであり、今後も更なる活躍が期待される。
吉川　徹 独立行政法人 労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 過労死等防止調査研究センター　統括研究員（センター長代理）	労働者の健康安全分野の専門家として、2019 年より ISO/TC 283（労働安全衛生マネジメント）の国内委員会に参画。 ISO 45003（職場における心理的な健康及び安全－心理社会的リスクの管理のための指針）および ISO 45006（組織のための感染症の予防，制御及び管理の指針）の対訳版作成においても専門的知見から多大な貢献を果たした。 また、2025 年 7 月に大阪・関西万博会場で開催した当会と GISHW が共催した「国際標準化フォーラム」では、ISO/TC 283 国内委員会を代表し、「安全・健康・ウェルビーイングと標準化」をテーマとしたパネルディスカッションに登壇され、JICA の活動等を通じた ISO 45003 の活用事例を紹介するなど、国際規格の認知度向上および普及啓発に大きく貢献した。 現在、労働環境への AI 等の新技術の適用が進む中、働く人の安全・健康・ウェルビーイングを維持・改善するには、実証事例を踏まえた国際規格の普及活用が極めて重要である。 日本規格協会主催のセミナー講師も担当しており、こうした時代背景のもと、今後も労働安全衛生管理分野における規格開発およびその普及への多大なる貢献が期待される。

氏　名	主　な　功　績
五味　由紀子 株式会社ＧＦＮ　代表取締役	2002 年より品質マネジメントシステム（QMS）の審査員として活動を開始し、長きにわたり主任審査員として第一線で活躍。数多くの組織におけるマネジメントシステム（MS）の定着と認証登録制度の社会的な信頼性の向上に寄与。 特に人命や国民生活の安心・安全に直結する極めて高い専門知識と審査技術が要求される「医療分野」の審査において、現場の実情に寄り添いつつも MS の意図を的確に踏まえた審査を提供している。受審組織からの評価も高く、医療サービスの質向上や安全確保に向けた継続的改善に繋がる価値ある審査の提供に大きく貢献している。 また、長年の活動で培われた豊富な審査経験と高度な専門性を活かし、QMS の審査技術に関する審査要領書の改訂について、WG メンバーとして参画するとともに、MS 共通要領書の作成にも貢献。加えて、後進の指導育成にも熱心に取り組み、現場での実践的な指導を通じて、若手審査員へ審査技術を伝承するだけでなく、審査員としての心構えや受審組織との適切なコミュニケーションの重要性を示し、日本規格協会グループの将来を担う質の高い審査員の育成に大きく貢献している。
浅井　秀一 一般財団法人日本品質保証機構 JIS 認証事業部 次長（兼）企画課 課長	一般財団法人日本品質保証機構における国内外の JIS 認証審査をはじめ、多岐にわたる実務経験を保有。日本規格協会主催の JIS 品質管理責任者セミナー「専修科コース」や「力量維持・向上コース」にて、長年にわたり国内・海外（中国・台湾）での講師を担当している。 また JISCBA 電磁的記録認証検討 WG の主査として、産業標準化法改正に伴う講習会基準の見直しに尽力しているほか、力量維持向上コース WG の主査としても教材改訂に大きく貢献した。 今後も JIS 登録認証機関と日本規格協会間の重要な連携を担う人材として、引き続き活躍が期待される。